



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10. 12月号

『こども園』をめぐるって

TVのニュースではあまり取り上げられていませんが、新聞紙面ではこの頃話題になっていて、かなり気になることがあります。「幼保一体化」「2013年には幼稚園・保育所を廃止して『こども園』に統合」こんな見出しです。今、我が子を幼稚園に通わせている皆さんに、この話はピンとくる話でしょうか？きっと「何だか随分乱暴な話よね」「統合っていうけど、具体的にどうなるの？イメージできない」と思われた方が多いのではないかと想像します。保育所に子どもを預けている親御さんも同じようなことを思われるはずです。そしてそれは幼稚園や保育所で働く私たちにとっても同様です。これを考えた人たちだけが「親の就労に関わらず誰でも入ることが出来る『こども園』で、幼稚園の定員割れと保育所の待機児童の問題は一気に解決、これは名案！」とっているような気がします。子どもたちや親をめぐる問題はたくさんあります。これを解決しようと様々な迷案が生みだされます。が、私にはいつもそれが対症療法でしかないようにみえます。小学校に入学した新1年生たちが学校生活に適應できないために様々な問題が起こります（いわゆる“小1プロブレム”）。これは大変！と考えたのは<就学前にもっと準備をしておこう！>という迷案。幼稚園や保育所の年長児に卒業半年前位から、小学校に入るための準備をさせようと考えています。小学校に体験授業に出掛けるなどの交流行事を増やす、幼稚園でも正面を向いて椅子に座る練習をする、文字や数字への関心を高める、などなど。<入学前に慣れておく>のは一見いいことのように思われます。でも少なくとも愛隣では、卒業前の半年を小学校の準備のために差し上げることはできないと考えます。それはこの短い期間が幼稚園での集大成、仲間との充実した園生活を送る1番大切な時だからです。運動会から卒業式までです。1日だって惜しいと思いながら過ごす毎日です。子どもたちにはその時、その瞬間をひとりひとりが存分に満足して過ごしてほしい、子どもたちのこの日は明日でもいいという1日ではないのです。しかしながらほとんどの学校(幼稚園・保育所を含む)では、次のステップのための準備に多くの時間を費やすようなことが行われています。大学生に至ってはこの就職難の中、3年生から就職活動に奔走しなければならないという有様です。何のために必死で受験勉強をし、高い学費を払って大学に通っているのでしょうか？対症療法では根本的な問題の解決にはならないと考えます。

待機児童の問題は確かに一刻も早く解消されなければならないことでしょう。不況の中、経済的にひっ迫している家庭が増えているのですから。でもそれは幼稚園と保育所を無理矢理一緒にした『こども園』をつくり、何でもいいから子どもを預ける器が出来さえすればいいというやり方で本当に解決するのでしょうか？あっちからもこっちからも、おとなの都合や言い分は聞こえてきます。でも、どこからもこの問題の当事者の一人である子どもたちの言い分は聞こえてきません。当たり前です。誰かが代弁しなければ、子どもたちの言い分なんて無視されてしまうのです。沈黙を守る良い子たち。心にある自分でも言葉に出来ないものを“荒れる”ことで表現する子どもたち。乳幼児期にこれ以上親子（特に母子）が引き離されて過ごすことを、少なくとも子どもたちは望んでいないのです。私は人が幸せな一生を送れるか否かの分岐点は、この乳幼児期にあると思っています。大好きな親から「あなたはかけがえのない大切な子」というメッセージを受け取れるか否かにかかっています。大切にされている、愛されているというメッセージを受け取れた子どもは自分を大切にします。自分を大切にできて初めて、他人を大切にすることができます。親子の関係、人として生きる根っこを築くこの時期を安心して過ごせるように、そのための時間がどんな状況にある親子にも保障されること、これを抜きにした安易な制度変更はますます日本の未来を危うくするように思えてならないのです。